

あだたら

十月八日(日)〜九日(月)

飯豊連峰 頼母木小屋

報告 菅野英伸

発行所 松山市本松町山部
あだたら山部編集



朝寝坊し、天狗平に七時過ぎに到着。我慢して椋川尾根を登って行く。銀色の飯豊山荘の屋根がなかなか小さくならない。石転び沢、差岳が素晴らしい。アップダウンを繰り返して、十七時過ぎ、漸く頼母木(たもぎ)



小屋に到着。小屋は満員御礼で、既に宴会が始まっていた。テント場は八張位か。小屋自慢のバイオトイレは、使用後、自転車を漕ぐタイプだった。水は小屋の

●編集部連絡先
二本松市本内1-5-15
0243(22) 4246
渡辺 正

すぐ前までの引き水で、水量は十分、掛け流しだ。翌日は、地神北峰まで登り返し、丸森尾根を我慢して下って来た。温身(ぬくみ)平まで足を延ばし、遅い昼食を食べて帰路に着いた。今まで一番大変な山行だった。次回は、石転び沢、大嵩(ダイグラ)尾根が視界に入ってきた。

御挨拶、経過報告

菅野善雄

このたびは私の不注意から、伝統あるあだたら山の会の安全登山・無事故登山の伝統を壊す様なことになってしまいました。誠に申し訳ありませんでした。また入院中は御見舞・元気を戴きありがとうございました。

五週目で二分の一、六週目で三分の二、その後全体重になり、松葉杖から開放されるが、杖無しでは立つことができない。そんな時「高く遠い夢」七十歳、エベレスト登頂というプロスキーヤー三浦雄一郎の本と出会うことが出来た。初めは時間つぶしに読み始めたのだが、あきらめず、一から直せば又安達太良山へ登る事が出来る様になるのではないかと、思う様になって来た。体力作り、リハビリに頑張ろうと思う様になって来て、気持ちも晴れて来た様だ。またこの本で考えさせられる事が多々あった。私もそ

の一人だったかも知れないが、山の名前に引かれ、自分の体力も技術もレベルを知らず、ベテランリーダー、案内人が一緒だから安心という甘い考えでいた様だ。歩きが遅い人の後ろが渋滞しているのにも拘わらず、道を譲るをしていない。また装備を付けるにも時間が掛かり手伝って貰っている人など、他の登山者に不快やストレスを与えている人が、安達太良や吾妻山あたりにはいる様だ。山登りのルール位はわきまえて登る事により、自分も他の登山者も楽しい思い出になる山行が出来るのではないかと、思う。諦めず低山山行を皆と楽しみたいと思ってる。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

十月三十一日(火)

安達太良山

初冠雪



十月三十一日(火)に二本松市内から安達太良山の初冠雪を確認できました。十月末は早いほうで大体は十一月になり、十一月は会員の竹部さんから十月十九日に「今日はとても寒いですね。あだたら、初雪です。峰の辻から上は、真っ白だったそうです。山友から連絡きました」と言うメール頂いていました。スカイラインの浄土平で初雪だった日です。しかし安達太良山のその様子は雲で未確認、その後何度か晴れましたが、暖かくなりが続いたり台風が来たりで、冠雪の状態ではありませんでした。二十九日に台風が通過、昨三十日は寒気が入り多分降雪、しかし晴れず、今朝ようやく日が射してきたので出かけたら冠雪していました。